



朱雀の翼



慮るおもんばかりということ

慮るとは、「思いをめぐらせる」「深く考える」という意味で、周囲に気を遣う、相手の心を察することや「遠慮」「配慮」に使われる漢字です。

12月は「人権月間」です。12月4日から10日までが「人権週間」で、特に12月10日は、国際連合で世界人権宣言が採択されてから「人権デー」となっています。

日本の場合、法務省の人権擁護局が中心となり人権啓発活動を行なっています。

どの人も尊重され、1人1人が大事にされなければいけません。では、**人権侵害**とは、どのようなことでしょうか。法令に反する行為だけではなく、憲法や世界人権宣言の基本原則である人権尊重の精神に反する行為をいいます。

子ども、女性、高齢者、障害を持った方などへの差別や偏見、暴言暴力行為や虐待、体罰、障害を理由に差別や不当な扱いをされるなどが挙げられますが、学校生活では、からかいや仲間はずれなどのいじめ、体罰、人によって態度をかえる差別、変なうわさをたてられるなどが考えられます。

東京都教育委員会では、毎年体罰根絶に向けて、体罰の実態把握調査を実施しています。本校でも、全校生徒にタブレット端末でフォームを活用して回答してもらいました。

私たちは、何気ない一言や行動が人を傷つけ、人権を脅かす人権侵害になっている可能性があることを知っておかなければなりません。**配慮**することで、人を大切にする、

尊重するという人権感覚が養われます。家族にも**配慮する気持ちを忘れないでください**。特に反抗期の人は、思ってもいない一言を勢いで言ってしまったら、後でクールダウンして、素直な気持ちを伝えられたらいいですね。

「いじめ」を許さない態度を身に付けるためには、「いじめはよくない」という知的理解だけでは不十分です。

実際に、「いじめ」を許さない雰囲気浸透する学校・学級で生活することで、生徒も「いじめ」を許さない人権感覚を身に付けることができるのです。教職員も一体となって組織づくりや場の雰囲気づくりに努めてまいります。

読む力、考える力、書く力UP作戦

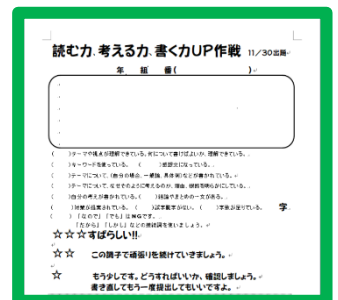
柳沢中の先生たちは、日ごろから生徒の学力向上、授業改善のために研究しています。生徒の実態調査結果で集中力や聞く力、読む力、説明する力などをより強化していった方がいいことがわかってきました。聞く力、読む力や考える力をトレーニングすることは、学力向上にもつながります。全校生徒に課題を出したところ、148名の生徒から提出があり、1枚1枚添削して返却しているところです。

今回の課題：「自分が納得すること」「対話すること」について自分の考えを書く。(200字)

【生徒課題文の一例】参考にしてみましょう。

→人と上手く対話するには2つのことが重要である。1つめは、相手の話を最後まで聞くことである。自分の話が途中で遮られると少し嫌な気持ちになるからだ。自分の話を途中で遮られていい気持ちの人はいない。2つめは、言葉のキャッチボールをすることだ。言葉のキャッチボールとは、相手の話をしっかりと受け止めて、その後相手が返しやすい言葉を選んで言葉を返すことである。しっかりと言葉のキャッチボールが出来ていれば自分も相手も不快になることは少なくなり、スムーズにコミュニケーションがとれ、人間関係もより深めることができるのだ。

→3年生、は今卒業後の進路決定に向けて、とても大きな壁に立ち向かっている。不安や心配、怖さでネガティブな事ばかり考えてしまいがちだ。しかし、それは一概に悪いものとは言えない。なぜなら、これは自分と「進路」というテーマの対話ができるチャンスだからだ。なりたい自分について、自分と対話して考え、なりたい自分から今の自分にレールを引くことで前を向くことができる。これからも自分と対話し、自分を見失わないように生きていきたい。



海洋教育パイオニアスクール



持続可能な開発目標（英語: Sustainable Development Goals、略称: SDGs）は、2015年9月25日に国連総会で採択された、持続可能な開発のための17の国際目標です。その下に、169の達成基準と232の指標が決められています。ミレニアム開発目標が2015年に終了することに伴い、2015年9月25日の国連総会で、『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』が採択されました。これは、持続可能な開発のために必要不可欠な、今後15年間の新たな行動計画です。

その中で、2030年までに達成すべき持続可能な開発目標（SDGs）として17の世界的目標と169の達成基準が示されました。

本校は、2021年度から3年間にわたって笹川平和財団が主宰する「海洋教育パイオニアスクール」として取り組んでいます。特に、SDGsの14番目に掲げられている「海の豊かさを守ろう」を推進した取組です。



【笹川平和財団の理念】 私たち人間は、古来より海と深いかわりをもち、海の恩恵を限りなく受けてきた。しかし、私たちの活動が海に与えるさまざまな影響は、海が本来持っている自然の再生能力を超えたものとなり、海が危機に瀕している。一人ひとりが、これからは海に守られるのではなく、海を守っていくという意識を持つ必要がある。「海とともに生きる」という姿勢は、未来の社会を担う子どもたちの人間形成の過程において不可欠なものである。海で学ぶ、海を学ぶ、海に学ぶ。海はさまざまな学びの要素を包含した魅力ある学習題材である。子どもたちが海にもっと親しみ、理解を深め、自分たちの力で海を守ってゆく、そんな新しい学びを日本中の学校に広げたい。「海洋教育パイオニアスクールプログラム」は新しい海の学びに取り組んで行こうとする学校を応援する。<https://www.spf.org/pioneerschool/program/school.html>

【柳沢中学校の取組】

教科カリキュラムに組んだオンライン授業による実習体験を可能にする海洋教育プログラムの開発(2年目)
～GIGAスクール構想対応オンライン型実験プログラム開発～

【今年度の取組】

- 12月23日（金）教職員によるイカの解剖研修会
- 1月14日（土）2年生によるイカの解剖
- 3月4日（土）3年生によるサメの歯化石



柳沢中生の主張-校内弁論大会- 12月20日

本校では、自分が選んだテーマについて考えたことを聞き手に主張する力を養い、また、他学年の生徒の発表を聞いて、自らの考えをさらに深めるとともに、自己の表現能力の向上を目指すことをねらいとして、弁論大会を実施しています。

クラスの小グループで発表を行い、班員と講評を交換し、それを受けて、原稿を校正し、仕上げます。その後、クラス内発表や学年別の弁論大会を経て、計8名の弁士による校内弁論大会が開催されました。視点や発想がすばらしく、どの発表も刺激を受ける秀作でした。

テーマ：「命を大切に」「私の紹介したい職業」「リ・サ・イ・ク・ル、リサイクル」「ドラえもんは、のび太のためになったのか」「ウサギとカメ」「同調圧力に屈しない」「OOOOはなぜおもしろいか」「でこぼこの可能性」



生徒会企画-クリスマス大会-



模造紙に書いた大きなクリスマスツリーに生徒一人一人が書いた小さなカードを貼ります。カードの色は学年別ですが、それぞれがクリスマスプレゼントに欲しいものを書きます。どのようなツリーができるか、楽しみです。出来上がったツリーは、ホームページに掲載します。楽しみにしてください。

避難所運営-小・中連携-

12月18日

保谷第二小学校で、避難所開設訓練が実施されました。今回は、開設時の受付業務（アクションカードの活用）やライフラインの確保として、発電機、給水機、仮設トイレの設置を行いました。

日頃から、いざという時のために備える必要性を痛感しました。

災害時マンホールに給水ホースを繋げる作業

